

編集の序

医療の高度化と多様化に伴い、病院薬剤師の業務もより専門性が要求されるようになってきました。さらに診療報酬やリスクマネジメントの観点から、チーム医療の一員として薬剤師の活躍が求められています。このようななか、2010年度より6年制の長期実務実習がスタートします。

病院実務実習では、薬剤師が関わるありとあらゆる業務について、さまざまな体験をしながら積極的に学んでいきます。薬剤師が薬物治療に積極的に関わっていることを感じていただくことが大切です。例えば、患者さんの苦痛がほんの少しでも軽減したときには、大きなやりがいと達成感を感じる実務実習でありたいと、指導薬剤師の1人として願うものであります。また、高い臨床能力が身につく実務実習が行われることは、医師、看護師と共にチーム医療を実践する病院薬剤師にとっても意義あることであります。

本書は、特にチーム医療の重要性が指摘されている化学療法、外来化学療法、緩和医療、感染制御、糖尿病領域、精神科薬物療法、栄養サポートチーム（NST）について、薬学的ケアに必要な知識を、わかりやすい写真やイラストで丁寧に解説しています。さらに、医療安全管理、夜間休日体制、治験コーディネーターや治験審査委員会などについて多くの写真を用いてわかりやすく解説しました。病院の機能がまるで現場で体験しているような臨場感をもって理解できるようになるでしょう。薬剤管理指導については、薬物治療の安全性の確認や、副作用モニタリング、検査値等からの情報収集、薬歴の作成と管理、退院時指導、処方支援、お薬手帳の活用などの基本的な業務の説明に留まらず、医療スタッフ同士のコミュニケーションや患者さんとのコミュニケーションについても触れました。それは病院薬剤師にとっても実務実習の指針となるだけでなく、業務の見直しができ、さらなる知識、技能、態度のレベルアップにつながるものと確信しています。

6年制教育は薬学教育モデル・コアカリキュラムに従って進められていますが、本書には実務実習モデル・コアカリキュラムに該当する項目に方略（LS）番号を記載し、大学での講義や実務実習前に行われるOSCEへの対策としても利用できるように配慮しました。指導薬剤師にとっても方略を確認して指導をすることができます。

本書が学生時代はもとより病院薬剤師業務に就いてからも座右の書となり、それによって業務が充実して、国民から信頼される病院薬剤師が大勢誕生することを願っています。

2009年1月

編者を代表して
阿部宏子